

プログラム近況報告

ミャンマー連邦共和国 タバウン地域開発プログラム(MYA-176922)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



「子どもの権利条約」を記念し開催されたお祝い会で行進する子どもたち



教育支援を受けている子どもたち



子ども・青年グループの活動に参加している子どもたち

子どもたち一人ひとりの存在が尊重され、 子どもたちの声が活かされた地域づくりが行われています

今年度、プロジェクトでは、地域住民と政府関係者によって構成される子ども保護委員会を10の村に設立し、子ども・青年グループの中から選出されたリーダーとともにイベントを企画しました。そこでは、子どもたちの声として、子どもの保護と参加の重要性について担当者に訴える機会を持ちました。リーダーに選ばれた子どもたちは、子どもの権利、ライフ・スキル*、リーダーシップについてトレーニングを受け、教育や保健衛生の啓発といった村の活動に自信を持って参加するようになりました。また、トレーニングの一環で他地域に訪問した際、多民族国家であるミャンマーの異なる民族文化や価値観にも出会い、違いを乗り越えて助け合って生きる大切さも学びました。リーダーに選ばれた子どもの一人は「リーダーに選ばれて光栄です。しっかり役目を果たします」とその決意を語りました。また、「子どもの権利条約」を記念する啓発イベントが開かれ、その中で、子どもの権利を主題にして子どもたちが創作したドラマのコンクールが行われ、1,000人以上が参加しました。参加した地元警察の警官は、「子どもの保護に全力を尽くします」と決意を語りました。経済的に厳しい家庭環境にある354人の子どもたちに対し、家の補修費用や、学習にかかる費用などを支援しました。支援を受けた子どもの一人、ポー君はこう話します。「経済的な理由で学校を退学しなければならないと知った時は本当に悲しかったです。でも、その後、ワールド・ビジョンの支援で復学できました。しっかり勉強します」そのほか、治療費を家族が支払えない59人に、地域の保健センターで適切な治療が受けられるよう支援しました。このように、子どもたちが安心して暮らせる地域となるための活動が続けられています。

※問題解決法、コミュニケーション・スキル、対人関係、チームワーク、決断の仕方、計画性など、生きていくうえで必要な知識・技術

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちの思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ

スポンサーの皆さま

タバウン地域より心からのご挨拶を申し上げます。

厳しい環境の中で懸命に生きる子どもたちにとって、皆さまからのご支援は何物にも代えがたいものです。

心から感謝申し上げますとともに、タバウン地域の子どもたちのより良い未来のために、引き続きご支援いただけますようお願いいたします。

皆さまの毎日が愛に満たされ、平和で幸せに過ごされますようお祈りいたします。

テト・パイン・ピョ

(タバウンADPマネージャー)



支援地域の子どもたちと
ADPマネージャー(中央)

教育プロジェクト

子どもたちが継続して学ぶ基礎を作るため、また親や保護者の教育に対する理解と関心を深めるため、就学前教育センターの設置を推進しています。今年度は、9村で実施され、昨年より4%多い32%の学齢に達した子どもたちが就学前教育センターで学びました。加えて、親や保護者を対象にした子どもの養育方法についての啓発教育も実施されています。その啓発教育に参加した父親の一人は、研修を終えて「無理やり大人の言うことを聞かせるのではなく、子どもの意見を聞きながらしつけを行えるようになりたいです」と語りました。



改築された校舎で学ぶ小学校の子どもたち



また小学校の校舎整備も続けられています。木造で倒壊の危険があった校舎から、防災基準を満たしたコンクリート製の頑丈な建物へ改築され、子どもたちが安心して学べる環境へと整えられています。

また、様々な事情で正規の小学校に行けない子どもたちを対象にした2カ所のノン・フォーマル教育校*が設置され、30人の小学校に通う年齢の子どもたちが教育を受けることができました。

※事情により途中で学校に通えなくなった子どもたちに、基本的な人権である基礎教育の機会を提供するため重要な役割を担っている非正規の学校

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

保健衛生プロジェクト

地域住民はこれまで井戸水を利用していましたが、地域によっては、井戸水が地中のヒ素により汚染されている場合があります。そのため、井戸水の代わりに雨水を飲用に使えるよう、セラミック製のろ過装置を支援しました。支援を受けた家庭のジュジュちゃんは「新しいろ過装置で安全な水を飲めるようになって嬉しいです。将来は、この村の人たちの健康を守るお医者さんになりたいです」と話してくれました。

また、各家庭が衛生的な習慣を身に付け、実践できるよう、歯磨き粉、歯ブラシ、石けん、長方形のバケツ、タオル、バスキャップといったものを含む衛生キットを子どもがいる家庭に支援しました。7,301人の小・中学生を対象に歯科を含めた定期健診を実施しました。

そのほか、32村の5歳以下の子どもを持つ母親1,092人を対象に、子どもたちが栄養価の高い食事をとれるよう、調理法の研修を行いました。

これまで家庭で出産することが多かった地域の母親たちが安全な出産を行えるよう、31村の620人の既婚女性を対象に、安全な出産についての啓発教育を行ったほか、126人の母親が経験の豊かな助産婦の介助を受けて、安全に出産することができました。

これまでに研修を受け、地域で活動している保健ボランティアも活躍しており、今年度新たに176人の結核保菌者を見つけ、治療を始めることができました。



セラミック製のろ過装置を通した水を使う家族



歯科医による定期健診

会計報告

収支計算書

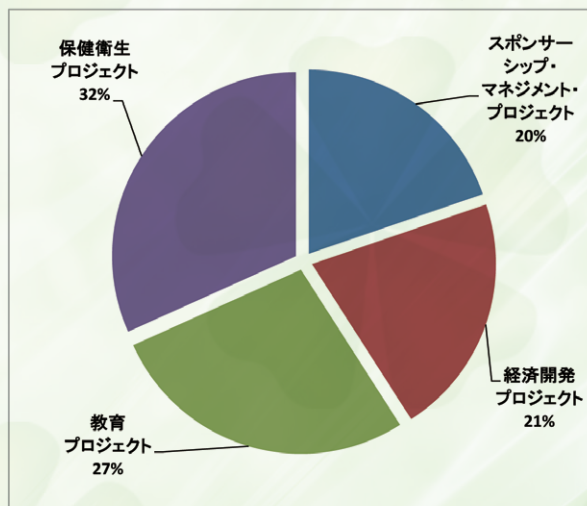
自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

プログラム支援額		MYA-176922
		(単位:円)
チャイルド・スポンサーシップ		47,605,656
当期支援額		47,605,656
前期繰越金		-2,595,852
プログラム支援額合計		45,009,804

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	8,466,831
経済開発プロジェクト	9,076,981
教育プロジェクト	11,717,524
保健衛生プロジェクト	13,595,163

プログラム支出額合計	42,856,499
次期繰越額	2,153,305

支援分野別内訳 (MYA-176922)





経済開発プロジェクト

地域の中で、93家族が暮らす高台の土地はやせているため、穀物の栽培には適していません。そこで、やせた土地でも栽培できるよう、キャッサバ芋の栽培を支援しました。タピオカの原料となるキャッサバ芋を粉砕する粉砕機の支援も行いました。キャッサバをそのまま売るのではなく、加工をして付加価値を付けて売ることによって利益率が高まります。また

研修を受け、市場の動向を見ながら販売時期を考えるなど、住民の販売能力も向上しています。さらに、住民の防災意識を喚起し、必要な対策を行うため、国際防災デーにちなんで政府と住民組織が共同で啓発行事を行いました。今年度12の村に新たな防災グループが発足し、合計で55のグループが活動しています。



キャッサバ粉の製造過程を見学する子どもたち



機械に入れるためキャッサバの根を取る工程



地域に根差した防災活動の啓発行事の様子



経済的に厳しい状況にある世帯2,382人に対し、貯蓄の重要性を伝えるとともに、より効果的に貯蓄ができるよう住民同士で貯蓄グループを作るための講習会が開かれました。参加した女性の一人は、「子どもたちの将来の教育費用をまかなうために、定期的に積立できるようになりたいです」と話します。2014年度には貯蓄グループを発足できることを目指しています。

村の貯蓄組合の設立



息子へのプレゼント

チャウ君は、お父さんとお母さんの3人家族です。お父さんは以前、土地を持っていませんでしたが、支援を受けて始めた養豚によって得た資金で土地を購入し、今はその土地でキャッサバ栽培に取り組んでいます。

お母さんは、野菜の販売をしています。お父さんは、キャッサバ栽培で得た利益で、お母さんが普段使っている小舟に付けるエンジンを買って、楽にお母さんが遠くの市場まで野菜を売りに行けるようにあげたいと思っています。

昨年、チャウ君はデング熱にかか

り入院が必要になりました。家族には費用を支払うことができず、入院費用の支援を受けました。その後、地域でのデング熱流行を予防するため、すべてのチャイルドの家庭に蚊帳を配りました。両親は初等教育しか受けていませんが、子どもにはもっと高いレベルの教育を受けさせたいと思っています。去年の試験

で、クラス中2番の成績を取ったチャウ君へのご褒美は通学用の自転車でした。「息子がしっかり学ぶためには、できる限りの応援をしたいと思っています。そのような力をくれたご支援に感謝しています」とお父さんは話してくれました。



お父さんに買ってもらった自転車を喜ぶチャウ君

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。